9. 糖尿病患者における ^{123}I-MIBG シンチグラフィの評価

竹岡 宏 三宅 秀敏 堀 雄三
田中 良一 上田 真也 脇坂 昌紀
門前 芳夫 森 宣 (大分医大・放)

[目的] 糖尿病患者の重症度と ^{123}I-MIBG による交感神経障害を評価する. [対象] 虚血性心疾患を除外した糖尿病患者 30 例. [方法] 安静空腹時に ^{123}I-MIBG, ^{201}Tl の2核種同時収集を行い planar 像から心/縦隔比を求めた. さらに SPECT から regional uptake を求め, 下壁/前壁比を求めた. [結果] いずれの症例も血流障害は認めなかった. 糖尿病が重症になるにつれ心/縦隔比の低下を認めた. Regional uptake も下後壁で有意な集積低下を示し, 糖尿病の重症度ごとの下壁/前壁比は有意な差を認めた. [結語] 糖尿病の重症度に応じて心/縦隔比の低下がみられ, かつ下壁/前壁比を用いることにより重症度判定ならびに経過観察に有用と思われる.

10. 負荷による ^{99m}Tc-MIBI 心筋血流変化——心/縦隔比は血流量増加の指標として臨床的使用が可能か——

勝山 直文 堀川 歩 柴田 冬樹
新里早奈枝 高良 誠 奥間 裕次
赤嶺 珠 中野 政雄 (琉球大・放)

運動負荷と安静時の ^{99m}Tc-MIBI プラナー像より心/縦隔比を算出した. 心筋 RI 摂取増加率として心/縦隔比の負荷時/安静時も同時に算出した. 対象は正常 83 例, 虚血性心疾患 135 例, その他心疾患 28 例の計 246 例である. 全症例での検討では, 負荷時の心/縦隔比は安静時に比し, 有意な増加を認めた (3.32±0.24 via 3.0±0.24, $p<0.001$). 三枝病変の心筋 RI 摂取増加率は正常群と比し, 低い傾向にあった (1.01 via 1.1). 薬剤負荷群では運動負荷群に比し, 心筋 RI 摂取増加率は有意に低かった (1.04 via 1.12). 以上より心/縦隔比は臨床使用が可能と考える.

11. 肝細胞癌におけるアシアロ糖蛋白レセプターのイメージングによる肝機能の検討

大園 洋邦 石橋 正敏 森田誠一郎
梅崎 典良 早渕 尚文 (久留米大・放)
河村 誠治 (同・画セ)

^{99m}Tc-GSA を用いて肝細胞癌におけるアシアロ糖蛋白レセプターの動態を検討した. 対象は, 肝細胞癌 36 例 (切除例 25 例, 非切除例 11 例) である. ^{99m}Tc-GSA 185 MBq をボーラス注入し, データ収集は肝と心を含む前面像で30分間行った. 肝と心に ROI を設定し Time activity curve を作成した. 投与後, 5–6 分の Planar 像を作成し, 視覚的に 5 段階に Grade 分類し, ICG15, LHL15 との比較検討を行った. Grade 分類は ICG15, LHL15 と有意な相関を示し, Grade 間で ICG に差が認められた. 以上より Grade 分類は肝機能評価の新しい簡便な指標であると考えられた.

12. ^{99m}Tc 標識熱障害赤血球により明瞭に描出された移植脾の1例

坂田 博道 春野 政虎 竹吉 正文
東原 秀行 岡崎 正敏 (福岡大・放)

今回われわれは, ^{99m}Tc 標識熱障害赤血球により明瞭に描出された移植脾の 1 例を経験したので報告する. 症例は, 50 歳, 男性で, 昭和 58 年 5 月胃癌にて total gastrectomy, splenectomy を実施され, その際脾移植を受けた. 平成 6 年 7 月, 検診にて肝腫瘤を指摘され精査目的にて当科へ入院. 腹部 US では肝 S3 に hypoechoic mass が認められ, Helical CT では mass は著明に enhance され, hemangioma が疑われたが, 肝に生着した移植脾も否定できないため障害赤血球による脾シンチグラフィを実施した. 静注2時間後の image では右葉の下方に2個, 左葉周囲に2個, 移植脾が明瞭に描出されたが, 左葉の mass は欠損像を示し移植脾は否定された. 肝血管造影では典型的な hemangioma であった. 本検査法は簡便であり移植脾の検出に有用な検査と思われた.

Presented by Medical*Online